

湖東流域森林づくり委員会「提言書」まとまる!

平成19年より検討をしてきました将来における湖東流域の森林のあるべき姿について、このほど提言書(4つの提言)がまとまりましたので、その骨子を紹介します。

重点提言1 山の付番制と効率的な森林管理システムの構築

- 境界確定等による所有山林の明確化
○植生状況や施業履歴等の調査(モデル地の設定)
○調査地(モデル地)に番号を付し、育林・伐採・販売計画等を樹立
○効果的・効率的な森林管理の実行と森林・林業後継者への支援

重点提言2 山地防災ヘルパーの改革と地域の森林を活用するマネージメント機構の構築

- 山地防災ヘルパーや森林保全巡視指導員等を統括した森林保全の専門官(森林レンジャー)を育成
○森林レンジャーを森林・林業技術に熟知したプロフェッショナル(森林マイスター)として養成し、地域林業の指導と活性化のため一定の地域に配置

重点提言3 シカの食害被害対策と人の手が入る森づくり

- 民猟免許試験における各集落での講習会の実施と試験開催回数の増加
○農林業者に対する民猟許可の特例措置の創設



*詳しい内容については、提言書本文をご覧ください。提言書は、中部森林整備事務所にあります。

- シカ被害の深刻さとシカ肉の有効利用策の普及啓発(被害・回復モデル展示林の設置、忌避剤アイデアやジビエ料理コンテストの実施等)

重点提言4 森林への関わりが県民全体に広がるしくみづくり

- 森林に関わるきっかけづくり
・マスメディア等を活用した情報発信の強化
・琵琶湖・淀川流域を舞台とした大キャンペーン(イベント)の開催
・各地域における森の健康診断実施による森林への関心の強化
・森林から産出される森の恵み等の資源の情報発信
○活動の受け皿づくり
・活動の受け皿として県有林の活用等ネットワークづくりの推進
・森林の癒し効果を活用し森林セラピー基地等を整備
・琵琶湖森林づくりパートナー協定(私有林も含む)の促進
○教育普及の拡大
・「やまのこ」事業のフォロー対策の充実(中高生に拡大等)
・学校林の活用と拡大

滋賀県中部森林整備事務所 〒527-8511 滋賀県東近江市八日市緑町7-23 ☎0748-22-7718 fax0748-22-8798



住環境と景観の保全・整備竹林の活用に向けて

佐和山の森を美しくする会

昔、佐和山周辺では、赤松林で松茸も多く取れ枯木や落ち葉は燃料資源として使われ、里山は周辺住民との生活と深い関わりを持っていました。時代が変わり、環境の変化で松林は皆無となり、倒木や雑木、蔓草で山は荒れ放題です。かつて建材や食材にと山裾に植えられた、真竹や孟宗竹も放置されるがままに繁茂し続け、隣接する住宅地や耕作地にまで被害が及んでいます。

平成17年に、身近に荒廃した竹林を地域や訪れる人の意向にそって整備できないか仲間と話し合い、まず無理せず行動する事を申し合わせました。自治会館に隣接する竹林の地権者と折衝し、荒廃している竹林の整理と間伐の了解を戴き、ご当家の作業協力の下で間伐整備を行いました。整備後、日が射して明るくなり、景観は一変しました。

平成18年には、県民参加の里山づくり事業を知り、事業の主旨を他の地権者にも伝えて協力いただき、7月に発起人会で会則を作成し、賛同者で総会を行い、佐和山の森を美しくする会を立ち上げることができました。事業の推進については、富之尾里山クラブとも協同して作業や情報交流に努めています。作業で切り出す竹の量も多く、竹炭づくりの提案もあり、簡易なドラム缶



手入れされて明るくなった竹林

方式に挑戦し、失敗を重ねながら商品として使える手法も判り、「佐和山の竹炭」として40年祭にも出品しました。平成19年から、毎年城北小学校の4年生児童と保護者を会館広場と整備途上の竹林に招き、自然体験学習会が青少育成協議会の協力で催されています。地域の会員と有志も参加協力して竹の切り出しや竹細工づくりを一緒にを行い、たき火を囲んでの焼き芋・焼きおにぎり・パン焼き・湯沸かし等を自習し、よき交流の場として定着しています。また、持ち帰った竹は学校の工作でテーマごとにグループに分かれ、思い思いの作品づくりに活用されています。会員有志も手伝いに参加して先生からも喜ばれ、今後も継続できればとの思いです。昨年は、筍の瓶詰めと料理教室を催し、大変好評で喜ばれました。今年も是非との声が... 森づくり事業に取り組んで5年目を迎え、これからも「佐和山の森だより」広報で情報を伝え、地域の有志の方々の協力を戴きながら、活動を続けてゆきたいです。

「佐和山の森を美しくする会」の連絡先は、0749-23-2472 代表 来本まで。

2030年 あなたならどっち?

今から20年後の滋賀県ってどうなっているんでしょう? このままいったらA?それともB?どちらに進むかは、今の私たちの選択にかかっているのかも?

A 2x2 grid of comic panels. Top-left: '夏' - 'あーい。エアコン、キンキンにきかす。' (Summer - 'Aww. The air conditioner is so cool.') Top-right: '夏' - '暑くない、ひりひりしないからエアコンはもういらない。がマンがマン。' (Summer - 'It's not hot, it's just itchy, so I don't need the air conditioner anymore. Man, man.') Bottom-left: '冬' - '暖房をガンガンにして半袖でぶさせるね。' (Winter - 'You're cranking the heater and wearing a tank top!') Bottom-right: '冬' - '暖房は(エリ)かぶ、体を動かして自己発電!' (Winter - 'I'll wear a scarf and exercise to generate my own heat!')

漫画・オノミユキ



鉈(なた)



山で刃物といえば鉈。大きさ、重さ、外観などどれをとっても圧倒的な存在感がある。"大なたを振るう"ということわざがあるように、豪快な振りが思い浮かぶ。しかし、実際の現場では振るうだけでなく、切、伐、打、刈、叩、削、割など、様々な使い方がされる。実のところ、山では鉈を振り回す仕事はあまり多くない。一見、主役のように見えるが、実は脇役であったりする。

そのせいだろうか、手入れがされていない鉈をしばしば見かける。分厚い刃を研ぎ直すのもかなりの労力がある。また今度、と思っているうちに刃こぼれだらけになってしまう。

靴の中から問いかける声が聞こえる。 わたしきれいな? (コラム担当 ガ)

編集後記

今回は、それぞれの原稿が充実の内容かつボリュームたっぷり! 執筆にご協力いただいたみなさんの熱意が感じられ、編集冥利につきます号となりました。佐和山ハイキングへ行きたい春うららかな今日この頃。(畠中)



春先にハイキングを兼ね訪れてください 佐和山とその城跡探訪



琵琶湖側から佐和山を臨む

最近、県外から研究者や若い女性が多く訪れている。

佐和山城の歴史は古く、鎌倉時代の初期に近江源氏・佐々木時綱が、佐和山の麓に居館を作ったのが始まりと伝えられている。長く続いた戦国時代、琵琶湖の東部を南北に分けて攻防戦が繰り返され、信長・秀吉の時代も近江の要衝を守る重要な位置にある佐和山城が重視されたようだ。秀吉の代に、五奉行筆頭の石田三成に入城を命じ、以降10年の間ここを治め、頂上に天守を構えその稜線には二の丸・三の丸・太鼓丸などが連なり、東側の山裾には大手門、その外側に二重の堀が巡らされ、今もその遺構が見られる。

主として入城したが戦傷を受け、死後の諸事を直政より託された家老木俣守勝により佐和山城を廃城とし、彦根山に移築する計画を家康にはかり彦根城の築城にかかった。彦根市文化財課では、平成16年から佐和山城跡の調査に取り組み、遺構やゆかりの資料も明らかになりつつある。昨年は遺跡あと地を間伐し測量がなされ、曲輪や切岸、石垣も判り、その要所には案内板や道標も立てられている。

昨年の遺跡調査では東麓の「奥の谷」筋で武家屋敷跡が確認され、文様の金具や椀・下駄などが出土している。三成の屋敷跡は、南側の「もちの木谷」の麓にあったという一説など、中世後半の佐和山城の全体像は、これからも解き明かされていくことだろう。1600年9月、西軍豊臣側の大將三成は関ヶ原の戦で負けて敗走し、その間に佐和山城は徳川の東軍勢の総攻撃を受け、煙硝櫓に火がつけられて落城したが、今その痕跡は殆ど見つかっていない。

清涼寺側の登山道は急勾配の坂道だが、佐和山トンネル口左側からのコースもよく利用されている。ここは昔の山道そのもので殆ど手は加えられておらず、法華丸・千貫池・太鼓丸跡を経て女郎ヶ谷や石垣・中世藤川城のあった伊吹山を眺望しながら直ぐ頂上に着く。北西には小谷山と長浜城・竹生島・琵琶湖を眺めつつ南西に向けて、彦根市街が一望でき2km先の眼下には彦根城の勇姿が見える。ここには関東や東海など遠方から訪れる人も多く、歴史を知り見聞する事で気力を養える。これが佐和山の魅力なのかも思う。

‘琵琶湖森林づくり事業’ って？

滋賀県では、平成16年度に施行された「琵琶湖森林づくり条例」に基づき、平成18年度より県民の皆様から「琵琶湖森林づくり県民税」をいただき、「琵琶湖森林づくり事業」として様々な事業を実施しています。



【琵琶湖森林づくり基本計画の基本施策】

- ①環境に配慮した森林づくりの推進
- ②県民の協働による森林づくりの推進
- ③森林資源の循環利用の促進
- ④次代の森林を支える人づくりの推進

環境林整備事業

里山リニューアル事業

里山リニューアル事業

実施主体：市町または森林組合

◆里山リニューアル事業とは



里山リニューアル事業 協定林現場（日野町村井）

里山リニューアル事業とは、管理・利用されなくなった里山を整備して、県民が親しみ利用できる森林として復元します。事業を実施するためには、森林所有者と市または町が整備方針を決めて地元自治会等と協定を結ばなければなりません。平成18年度から始まったこの事業は、平成21年度までに管内21箇所で開催されました。



植栽状況

◆実施場所の紹介

今回は、この中でも日野町村井を紹介します。ここでは、平成18年度に事業が実施されました。事業が実施され、間伐や進入してきた竹を切ったり、歩道を作ることにより、荒れていた山が綺麗に整理されました。協定では、事業実施後は地元で山を管理することとなり、平成19年2月11日に「大田山を守る会」が結成されました。

事業実施から3年以上経過していますが、とても綺麗に管理されています。作業をしておられた方にお話を伺ったところ、「山の管理は、いつも人がそばにしている。主な作業は枯れた木の伐採整理、苗木の植栽、草刈り、散策道の整備」とのことです。植栽した苗木は、(財)滋賀県緑化推進会を通じて手配したものです。

平成19年には地元住民、長寿会等のタケノコ刈りや竹細工教室を行い、近所の住宅に竹プランターをサービスしました。苦労しているところは草(笹)刈りが大変なこと、シカが新しく植えた木を食べてしまうので困っていること、マツクイムシ被害で枯れた松林が広がっていること等だそうです。



間伐実施後

◆その後

今年の1月にも見に行きましたが、7月に「もう少し間伐したい」とおっしゃっていた場所は作業が終わっていました。木の間も広がり、空が見えるようになっていました。

環境林整備事業

実施主体：市町



◆環境林とは

森林には、木材の生産だけでなく、琵琶湖の水を育み、自然災害から生命や財産を守るなどの公益的な機能があります。スギやヒノキなどの人工林では、森林の持つ公益的な機能を発揮させるため、間伐などの手入れ作業が必要です。これまで森林は、山村生活の一部として人と深くかかわり、林業が活発に行われることにより人工林の手入れがされ、その結果として、森林の公益的な機能が発揮されてきました。

現在では、木材の生産活動の低迷や、森林所有者の不在村化・高齢化などにより、森林所有者による間伐が行われず、整備が遅れている人工林も見受けられます。このまま放置されれば、森林の荒廃により、森林の公益的な機能が損なわれ、私たちの暮らしに深刻な影響をもたらすことが懸念されます。このため、県では、作業路の整備による間伐材の搬出の推進や、長伐期化に伴う高齢級の間伐実施など、間伐の総合的な対策に取り組んでいるところです。

しかし、道路から遠距離で、将来的に採算性が見込めないなど、地形的、経済的に不利で放置された人工林については、木材の生産を目的とせず、森林の持つ公益的な機能を発揮させることを目的として、40%以上の強度な間伐により、森林の中に光を入れ、下草や広葉樹の生育を促し、20年程度をかけ、スギ・ヒノキなどの針葉樹と広葉樹が入り混じった自然生態系が豊かな森林を目指しています。滋賀県では、このような針広混交林を環境林と定義し、その整備を進めています。

◆事業の実施は

森林所有者の皆様には、20年間の皆伐の禁止や強度な間伐による混交林化についての協定を、市町と締結していただき、事業の実施は、協定に基づき市町や森林組合が行います。環境林として、将来にわたって、木材生産を目的としない、公益的な機能を発揮させる森林として管理していただくこととなりますので、費用は、森林所有者の自己負担を伴わず、県が10/10補助します。道から遠距離であるなどの理由により放置された人工林で、将来的に採算が見込めず、ご自身で手入れできない場合には、この事業をご活用ください。

◆管内の整備実績について

中部森林整備事務所管内では、平成18年度から平成21年度の4年間で、250haの整備を行いました。下の写真は、整備後約2年が経過した森林の状況です。現地では、広葉樹を出来るだけ残して、スギ・ヒノキについて40%以上の強度間伐を行いました。下層には、広葉樹の侵入も見られます。このように、琵琶湖森林づくり県民税を活用して、滋賀の森林を健全な姿で未来へ引き継ぐために、陽光が差し込む健康な森林づくりを行っています。

東近江市	183ha
日野町	12ha
彦根市	4ha
多賀町	51ha
計	250ha



「施工前」



「施工後」(東近江市君ヶ畑町)